



あずましくて
 とっても
 いいヨ!

玄関の上がりか
 まちはスーパーフ
 ラット。靴の脱ぎ
 履きがしやすい
 ベンチも設置。



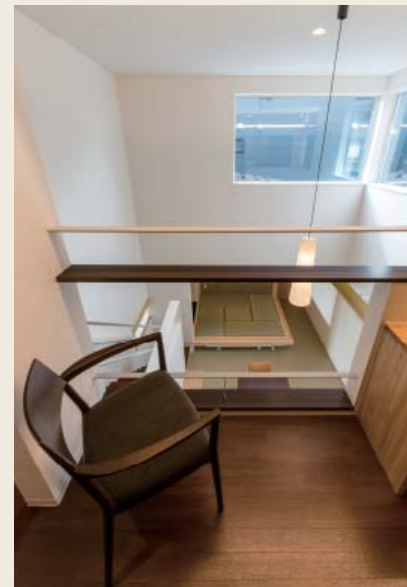
ちょこんと腰かけて休憩しやすい和
 室。障子窓を開けると光枝さんの寝
 室の中が台所からも覗ける。その和
 室の一角、家の中心に位置するお仏
 壇が、3人の暮らしを見守っている。



この大黒柱を中心に、台所・バストイレ・玄関への
 導線を整理。



1. 通りと玄関を結ぶスロープ。これがあれば、光枝さんと同世代の友人も遊びに来やすい。2. 雅
 子さんと雅絵さんが2人並んで作業しても狭さを感じない、広々とした台所。背面にある戸棚は収納
 力抜群。3. 間接照明が美しいパウダールームは女性的で優しい雰囲気。2人並べる広さがある。



吹き抜け構造で開放的な空間が広がる。「1階に
 いながら、天井際の窓から月や星が見えるん
 です」と雅絵さん。その2階吹き抜けを前に設けら
 れた、雅子さんの洋裁コーナー。手前左側には雅
 絵さんのパソコンデスクもある。

——いつまでも、母さんに元気でいてほしいから。

高野 雅子さん(60)
 会社員。趣味は洋裁と
 マラソン。42.195km
 の自己ベストは4時間2
 分。今年はサロムウルト
 ラ100kmに挑戦。



第1回

大黒柱が見守る、凜とした家



田邊 光枝さん(81)
 この場所に暮らすこと
 48年。かつては社交ダ
 ンスにも精を出してい
 た活動派。掃除、片付
 け大臣。



高野 雅絵さん(34)
 ジャズシンガーとして
 活動中。ライブのベー
 スは北24条駅そばの
 Jazzバー「Lazy Bird」。

キッチン、リビングダイニ
 ング、和室がすべて吹き抜
 けの下につながり、開放的
 な共有空間になっている。

唯一無二の家
 づくり

家は人なり。
 住み手と作り手の個性が
 響きあい、生み出される。
 世界中を探しても、
 ここにしかない魔法の器。

の光枝さんの様子に目が届く。
 建て替えを決めてから、あらゆる住宅
 メーカーを検討してきたが、なかなか納
 得のいくプランは得られなかった。メー
 カーではなく高齢者住宅を手がけている
 設計士に依頼しよう決めてから、最初
 に出会ったのが、建築家・山下一寛さん
 だ。介護する側、される側にとって心地の
 良い住宅を、自身が親の介護をしてきた
 経験を活かしながら提案している。
 高齢者に優しい住宅、と聞いて想像さ
 れるのは壁の手すりだが、どこにも見当
 たらぬ。リビングに隣接する和室は、バ
 リアフリーならぬ「小上がり」。でも、光枝
 さんは和室のへりに腰かけ、楽しそうに
 娘達とお喋りしている。ゆっくりとした
 歩調だが、まだ手すりなしで歩け、一段高
 い和室の出入りにも不自由はない。
 今、必要のないものはつけない。先に作
 ってしまおうと、それを必要とする未来へ
 向かっていつてしまおうから。必要になっ
 たら作ればよい。願わくば、ずっとこのま
 ま元気でいてほしい。そんな家族の想い
 が、この家には込められている。
 親の介護という静かな覚悟と向き合い
 ながら、決して暗くはない。むしろ、高野
 家には賑やかな笑い声が溢れているのが
 印象的だった。「空間全部が心地よく、家
 で過ごす時間が楽しくなりました」と語
 る雅子さん。大きな窓の外には、家族の40
 年以上の思い出が詰まった庭。「今年の夏
 はここでバーベキューでもやろうか」と、
 目を輝かせて笑った。

外の通りから玄関へ滑らかなスロープ
 が作られ、靴を脱ぐ三和土と廊下の境界
 には段差がない。家の中と外がさらりと
 繋がっているような、不思議な感覚。
 「どうぞどうぞ」と賑やかに出迎えてく
 れたのは、昨年この家を建てた高野雅子
 さんと、娘の雅絵さんだ。少し遅れて、雅
 子さんの母・田邊光枝さんもやってきた。
 この日お邪魔したのは、高野家3代の
 母娘が暮らす家。雅子さんは仕事を続け
 ながら趣味の洋裁やマラソンに精を出
 すアクティブ派。雅絵さんはジャズシン
 ガーとして活動している。光枝さんもか
 つては社交ダンスに勤しむなど、三者三
 様に活発で、姉妹のように仲が良い。
 ここは、雅子さんが母のために建替え
 たバリアフリー住宅だ。以前は3階建て
 で、光枝さんが高齢になるにつれて階段
 の上り下りが一苦勞に。そこで雅子さんは
 決断をする。母の世話をしながら、みんな
 で一緒に暮らせる家にしよう——と。
 ゆるやかにジャズが流れるリビングと
 広いキッチン。吹き抜け天井が開放的だ。
 きりっと立つ大黒柱や家の中心にある仏
 壇が、家族を見守る。階段周りのシャイ
 プなデザインも、どこか凛とした雰囲気
 だ。3人の部屋がそれぞれにあり、プライ
 ベートな時間と場所をきちんと持てる。
 光枝さんが万一、車イスを使うことに
 なっても対応できるように、1階はどこ
 も空間をたつぷりとしてある。2階の吹
 き抜けスペースには、雅子さんの趣味の
 洋裁コーナー。ミシンをかけながら、階下